

目次
新品種紹介
草花
お助の商品
ユーストマ
お助の商品
ピオラ
お助の商品
ハンジー
ア
カ
サ
タ
ナ
ハ
マ
ヤ
ラ
ワ
MUSIC
虫食米苗
野菜種子
球根・苗木
資材
販売規定



コパークイーン®

花柄 大輪 早晩性 中晩生
草丈(cm) 120~130
【適正作型】 促・季・抑
【品種特性】 花首が伸び易い。



サンシャイン®

花柄 大輪 早晩性
草丈(cm) 120~130
【適正作型】 表参照
【品種特性】



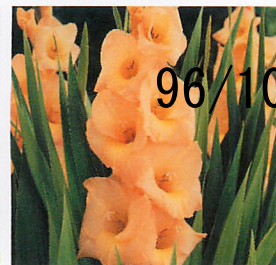
フレボビーチ®

花柄 中大輪 早晩性 晩生
草丈(cm) 130~150
【適正作型】 促・季・抑
【品種特性】 抑制のハウス栽培では草丈が出ないが、咲き、抑制では問題ないし、秀品率が高い。



プリンセスマーガレットローズ

花柄 中大輪 早晩性 極早生
草丈(cm) 100~110
【適正作型】 促・季・半抑
【品種特性】 小花が密に付く。



エスタボニータ®

花柄 大輪 早晩性 中晩生
草丈(cm) 120~140
【適正作型】 半促・季・半抑
【品種特性】 草丈の伸びが良く、花持ちが良い。肥料控えめが良い。



ケイン®

花柄 大輪 早晩性 晩生
草丈(cm) 120~130
【適正作型】 促・季・抑
【品種特性】



インビテイト®

花柄 大輪 早晩性 早中生
草丈(cm) 120~140
【適正作型】 促・季・半抑
【品種特性】 花卉に白フチ、真夏の採花は穂が伸び茎が細くなる。



ファド®

花柄 大輪 早晩性 晩生
草丈(cm) 120~140
【適正作型】 半促・季・抑
【品種特性】 花上りが緩やか。



チョップス®

花柄 大輪 早晩性 晩生
草丈(cm) 110~120
【適正作型】 季・抑
【品種特性】 ポリューム有。



ドルチェビタ®

花柄 大輪 早晩性 早中生
草丈(cm) 110~120
【適正作型】 促・抑
【品種特性】 1番花から曲りが出易いが咲揃いは良い。



アルバンディラ®

花柄 大輪 早晩性 中生
草丈(cm) 120~130
【適正作型】
【品種特性】



ダイナマイト®

花柄 中大輪 早晩性 晩生
草丈(cm) 120~140
【適正作型】 季
【品種特性】 花色注目。



モンアモール®

花柄 中大輪 早晩性 中生
草丈(cm) 100~110
【適正作型】 抑
【品種特性】 茎が細い、花上りが早い。



ホームカミング®

花柄 大輪 早晩性 中生
草丈(cm) 100~130
【適正作型】 半促・季・抑
【品種特性】 ノドに紫、清涼感のある色、茎がやや細い。



フレボスピリット®

花柄 中輪 早晩性 中晩生
草丈(cm) 120~130
【適正作型】 促・抑
【品種特性】 暗室開花は白/青目

ミニタイプ



栽培ポイント ● グラジオラス ●

- **適地**
日当たりと排水がよい処女地が理想的で、連作は最低3年間は避け、水稲との輪作ができれば最適です。梅雨、秋雨時期の比較的高温多湿の時期や真夏の生育適温以上の高温の時期に、4~5葉期までの幼苗期が重なると発病しやすいため、この悪条件を避けた作型を選択する必要があります。鉄砲ゆりや水仙の後作はネダニがつきやすく、特にマルチ栽培、ハウス栽培は避けた方がよいでしょう。
- **施肥**
窒素過多は発病しやすく、特にアンモニア態窒素の過剰は、根の枯死、けん引根の不発生、葉先の枯れ込み、球根の腐敗などを生じます。元肥は、N、P、K各成分とも10a当たり、中球以上で5~10kg、小球以下で10~15kgを全面にすき込みます。pH:5~6.5。ハウス栽培は、乾燥しすぎると肥料濃度が高まり、生育不良になりやすいので、チューブ灌水などで適温を保ちます。
- **定植**
被覆下の促成栽培は、浅植えにして、高地温で発芽を促します。高温時に植えつける抑制栽培は、10cmぐらいにやや深植えにし、敷ワラなどで地温を下げます。抑制栽培用の球根は、定植が遅いほど大きい球根を植えつけます。
- **品質のよい切り花を咲かせる条件**
・4~6葉期に日照が十分であることが必要で、この時期の低照度は、開花率の低下、小花の減少を生じます。
・6葉期の低温は、花芽の形成が止まります。また、0~3葉期に低温を受け、その後低照度短日下で栽培するとブラインド株が生じます。
・乾燥地を避け、適温を保つことが必要です。
- **グラジオラスアザミウマの防除**
・球根生産では完全に防除を行い、良球の生産をしていますが、切り花生産をする場合に次のことに留意のうえ防除してください。
・被害の症状
花に白い斑点が生じ、形が崩れ、開花しないことがあります。茎葉にウイルス症状に似た白い縞模様が生じます。黒い排泄物がつきますので、ウイルスと区別できます。
・防除法
定植前に、球根をオルトラン水和剤1,000倍液に10分間浸漬します。栽培中は、オルトラン水和剤1,000倍液を2週間おきに2回程度散布します。

作型	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月												産地	栽培上の留意点・その他
	● 低温処理(休眠打破のための) ● 冷蔵(発芽抑制のための) ● 植つけ ● 開花 ● 被覆													
露地促成栽培	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												沖永良部 / 山川	小~極小球を植えて自家養成し、6~7月に収穫。6℃内外で30~42日低温処理。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												山川	小~極小球を植えて自家養成し、7~8月に収穫。6℃内外で30~42日低温処理。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												沖縄 / 沖永良部	低温処理済みの早掘り球を使用。日照をよくするために疎に植える(100~120球/3.3)。ブラインド発生が少ない品種が重要。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												沖縄	沖縄では4月中旬以降の切り花出荷はむれやすいので、植えつけは1月中旬以降にならないように。
被覆下促成栽培(ハウス・トンネル)	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												暖地(伊豆では露地)	6葉期の晩霜に要注意。被覆下でも凍結しないように保温に努める。早生品種を選ぶ。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												平地	ハウス露出し切り花の後作に有利。ただし、鉄砲ゆり・水仙の後作にはネダニがつきやすく不向き。
露地普通栽培	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												平地 / 準高冷地	根つけ後1~2か月曇天が続くと切り花が遅れるので、植つけ時の天候に留意。夏期朝日が強く当たる所では葉先が傷みやすいので注意。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												高冷地	
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												準高冷地	出穂時以降台風にあつと被害甚大。夏期の乾燥時葉ダニの防除に努める。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												平地	
露地抑制栽培	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												暖地	植つけ後、低日照が続くとブラインドをおこしやすくなりますので、大きめの球根をご利用ください。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												沖繩 / 沖永良部	植つけ時の高温の害を避けるためやや深植えにし、敷ワラなどにより地温を下げ、適温を保つ。日照をよくするため疎に植える。ブラインド発生が少ない品種を選ぶ。
	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●												三浦半島 / 和歌山	抑制栽培の切り花を球根を残して採花。1回目の採花は12月初めまでに終わる必要がある。

*表示価格は税抜き価格です *全ての品種の写真が掲載されておりませんことをご了承ください。